

# 希望 21

ありふれたことだけど  
かけがえのない  
希望がここにある

People's Hope for 21 century

平和・自治・共生

## No.30

1部 200円 年間購読 3000円  
神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110  
TEL & FAX 0427-40-4794  
NIFTYserve ID: JAH03412  
郵便振替: 00100-1-97125 希望 2 1



## 民主主義・平和の危機の時代 私たちの当面する課題

希望21全国委員 金子光史

### 弱肉強食・人民不在の政治

参院選に向けた動きが、再び政界をにぎわせています。年末の新進党解体は、反自民という一点で基本政策の違いにも目をつむり、民友連という野合の統一会派を生み出し、今は政権交代可能な二大政治勢力結集という謳い文句で新党だと騒ぎ興じています。こうした中央政界の数合わせの離合集散の動きは、かつて村山首相実現のためということを名目に、日本全国の各地で地道に運動を支えてきた草の根の党員に何の理解を得ることもなく、党中央で基本政策を一方向的に転換し、護憲平和の統一的軸として存在した社会党を崩壊させた歴史的な過ちをまた再び繰り返そうとしている愚行としか思えません。

地方レベルから国政レベルに至る一貫した護憲平和・民主政策を議会に体现してきた社会党という責任政党の崩壊は、草の根の運動から諸政治グループを含めた平和・民主勢力の深刻な分裂を招き、自民党の単独政権を可能にさせる現状を生み出しました。そして、私たちに押しつけられた政策は、消費税増税、大企業の延命のために国民の税金を湯水のように使う一連の破綻した経済政策であり、低賃金による労働強化、不安定雇用、失業者の拡大といった生活破壊、有事関連法から盗聴法にまで至る自治体から民間までもを巻き込んだ米軍一体の戦時社会作りの政策でした。

それはまさに国家が国民を一部大企業利益のために丸裸にして捧げる弱肉強食の政治であり、基地撤去や原発に反対する民意を国益を盾に蹂躪して抹殺する人民不在の政治です。

### 分裂から統一へ！！

### 政治の転換点としての参院選

しかし、残念ながらこうした民主主義、平和の危機の時代にあってもなお、私たちは、それぞれの地域、そして国政レベルでの統一した闘いを準備し得ていません。本号に掲載した東京・三多摩の市議選分析にも見られるように、基本政策がほとんど一致していながら、地域における諸政党、政治グループの立候補調整機能を持ち得ていないため、乱立による市民派の議席喪失が目立ちました。このことは、私たちの統一に向かう意思と力が未だ時代に対応しきれない脆弱なものであることを明らかにしました。民主主義と平和の危機の時代に、私たちに問われているものは、社会党崩壊から現在に至る深刻な分裂を「だれそれが悪い」と責任転嫁するのではなく、私たち自身の問題として捉え直し、それを時代状況の中でどのように克服し、統一に至る道筋を作っていくかという事です。そして、まさに時代は、7月の参院選に向けて護憲・平和、民主勢力の統一と議席拡大をどのように実現するのかを

私たちに問いかけています。

この間の自民政権が持っている全ての政策は、このまま7月参院選を乗りきれば、唯一の障壁である社民党を切り捨て、米軍一体となった有事改憲国家、グローバルイズム・多国籍企業優先の弱者切り捨て社会へまっしぐらに進んでいくことを明らかにしています。米国の対イラク軍事攻撃の危機に、日本政府がやったことは米英の恫喝に屈し、日英で米国の対イラン軍事攻撃を正当化させかねない国連安保理決議を提案、採択させることでした（3月2日）。米軍の攻撃に際しては、橋本首相は「何が出来るか。米軍の輸送の肩代わりか、医療の支援か」と久間防衛庁長官に検討を指示するなど、イラク人民への米軍の軍事攻撃に直接的に関与する姿勢を明らかにしました。これは国会提出を狙っているガイドライン関連法の「後方地域支援法」（仮称）、PKO協力法改正案の先取りそのものといえます。また、社民党が強く反対している通信傍受（盗聴）を可能にする犯罪対策法案を「提出権はあくまで政府にあり、社民が閣外協力である以上、閣議決定は阻めない」と国会日程方針を明確にしました。経済政策においては、銀行への公的資金投入によって大企業、大銀行救済を進め、一方で医療費の値上げや中小企業の切り捨て、雇流動化政策など負担を人々に押しつける政策を強めています。こうした流れを加速させるのか、或いは政治的転換とさせるのが7月参院選に問われている歴史的意味です。

### 市民の絆を軸に新たな統一の流れを創ろう！

私たちは、昨年来、地域の政治勢力の統一に向けた動きと連動した国政レベルでの統一機能を持ちうる回路として、社民党の市民政党化を目的とした「市民の

絆」結成を呼びかけてきました。分裂の現状を憂い、統一の芽をあらゆる形で生み出していこうとする多くの人々によって「市民の絆」は、大阪、東京、川越、愛知、神奈川、滋賀、京都といった各地で結成、準備会発足といった目に見える流れを作りつつあります。7月の参院選に向けては、従来の社民党候補といった枠を超え、市民派・「市民の絆」派の候補を擁立しようという地域も出てきました。大阪の長崎さん、愛知の杉本さん、神奈川の阿部さん、そして東京や比例区でも私たちが代表する事の出来る人たちが立候補を決めつつあります。こうした候補者は地域の市民派政治勢力とも共同できる人々です。7月参院選に向けた共同の取り組みを軸に、私たちの足下から新たな統一の流れを作っていくのが私たちに問われています。

様々な客観条件の中で与党として閣外協力を選択し、社民党が果たしてきた役目は、参院選を機にその使命を終えようとしています。そのプラス・マイナスの功罪の総括は、今後、人々にとってどうであったかという観点に立ち、行わなければなりません。もちろん、それは分裂を正当化するためのものではなく、分裂を克服し、基本政策に一致した新たな統一を作り出すためのものでなければなりません。私たちは、その論議を地域で開始し、7月参院選後を見据えた、地域と国政、生活と政治を結ぶ新たな回路としての「市民の絆」の可能性をさらに訴えていくつもりです。

分裂から統一へと政治の流れを反転させ、有事法制反対、政財官腐敗徹底究明、弱者のための経済政策を柱に「市民の絆」とともに7月参院選の取り組みを開始しよう！

教訓としなければならない。

■保守の退潮は、展望を見いだせない長期不況下での保守陣営の経済政策批判がそのまま現れたと見ていいのではないだろうか。これまでの流れであれば、不景気、増税、失業といった保守批判の高まりの中で、無党派層は、既成政党批判をリンクさせ、新しい政治選択を投票行為として表現した。この流れの中で、左派勢力・市民派は、もう一つの政治選択の受け皿をイメージし、無党派市民候補としての選挙を準備し、実際に一つの流れを作ってきた。三多摩は、ここ数年、そうしたもう一つの政治選択の受け皿づくりとして、選挙区を越えたネットワークの取り組みを強めてきたし、そうした取り組みの先にローカルパーティーの可能性も含んだ展望を切り開こうとしていた。今回の市議選ももちろんそうした流れの中での取り組みであったが、結果はそうした流れとは根本的に違うものとなった。保守から民主へ、保守から共産党へ、市民派から共産党へというふうに、これまでの「既成政党批判」から「政党の選択」に有権者の思考の変化がうかがえるものとなった。繰り返すが、日野市が全国的に見て共産党が最も成功している地域という条件を加味してでもである。

■この背景になっているものは、現在の日本と世界が抱えている経済危機が、直接的に人々の生活を打撃し、雇用・失業・生活不安と民意を生かしていない政治に対する怒りがあるものと思われる。これまでのような「国政選挙と地方選挙は違う」といった、有権者のある意味での余裕はすでに無くなりつつあるのではないだろうか。現在の生活不安、政策矛盾を明確にし、保守政治を批判しながら、経済政策も含めて、トータルに政治の方向を提起し、その実現に可能性がありそうな勢力を考えた場合、その選択肢には、現実の政党を選択する以外にはないという判断が出始めているのではないだろうか。口先だけの批判ではなく、実際に地方レベルや国政レベルで政策に影響を与えることのできる候補者を、という判断は、私たちに地域と国を結ぶ、責任ある政治勢力の創出をどのように作っていくかという事を問うているのである。

■そうした有権者の判断を生起させているもう一つの要素は、護憲派・市民派の分裂や乱立ということであろう。新社会や社民、無所属を含めて、今回、誰が見ても、同じような政策を掲げながらの非常な乱立は、それぞれの党利党略の結果にしか映らず、街づくりや暮らしを守っていくという観点からも、責任ある勢力という評価は得られない。多くの市民派の立候補という事については、これまでにない人々の自治への挑戦という意味での評価と共に、基本政策を一致させ、現実的な議席を一つでも多く、どう獲得していく

政党・勢力	94年得票	98年得票	増減	備考
自民党	19,887	18,099	-3	-1,788
保守				
企業	9,572	10,740	+1	+1,168
共産党	10,540	15,540	+2	+5,000
系				
新社会	0	652		+652
社民	3,153	2,748	0	-405
公明	10,851	10,496	0	-355
民主	0	4,829	(+2)	+4,829
ネット	2,079	3,205	+1	+1,126
市民派	3,167	1,211	-1	-1,956
他	3,085			

\*後に民友連と企業は合流か？

かという調整機能、統一戦線機能を地域としてどのように作っていくかという事が真剣に問われているのである。これについては、単に無所属市民派だけでなく、新社や社民といった基本政策に一致できる政党・支部を巻き込んだ作り方を考えていかなければ実効的な有効性はほとんど持ち得なくなるだろう。

■今回の市議選は、日野独特の問題として、昨年の市長選とそれ以降の問題が多分に影響した選挙であった。市民会議は市長選にあたって、当初共産党との共闘を前提に、政策の中身、候補者の選定などに関わったが、最終的には共産党を批判し、市長選では中間的な立場・行動をとることになった。今回の選挙期間中も、議会内の立場と今後について、与党か野党かという事が不鮮明であるという指摘が数件寄せられた。この点は、敗北の一つの要因として押さえておく必要がある。共産党との関係をどうしていくか、市民派政治勢力の展望を議会内でどのように作っていくか十分に議論し、一致させた上での取り組みが求められる。

■イメージ選挙ではなく、実践と政策で勝負し、地域の統一に向けた取り組みの一環として選挙戦を闘うことは容易ではない。選挙の技術面、組織戦にならざるを得ない選挙、選挙資金などの面で、私たちはまだまだ未熟であり、今後多くの課題を残した選挙でした。応援していただいた希望の仲間や読者諸氏、多くの仲間から謝意を述べると共にこれを今後の教訓に生かし、がんばっていきたくております。本当に有り難うございました。

## 三多摩の市議選は私たちに何を教えるか

希望21三多摩

2月から3月にかけて、日野市議選、町田市長・市議選が行われた。私たち希望21三多摩も全力を挙げて、この二つの選挙に取り組んだが、結果は私たちの仲間である市議の落選を含め、無所属市民派候補の苦闘、退潮傾向が明らかになるものであった。わずかに希望21町田として、発足したばかりの「市民の絆・東京」と共に取り組んだ社民の絆候補が大幅に票を伸ばして当選したのが、我々の今後に希望をつなぐものであった。

それぞれの選挙総括は、今後、選対を通して行われる予定だが、ここでは日野市議選を取りあげ、人々の政治傾向、特徴は私たちに何を教えているかを共有化していきたいと考える。

■別表は、前回94年の得票と今回の得票を政党・勢力ごとにまとめてみたものである。前回の市議選では、全体像として、革新陣営9名全員当選。保守退潮の流れを生み出した。得票数と議席との関係で客観的に見て、今回も保守は依然退潮で、共産党と民主党、ネット（民主党は前回ベースなし）の伸びが明らかと

なっている。日野市は三多摩における共産党の拠点地域で、伝統的に共産党が強いということもあるが、五千の票を伸ばし、保守・自民党に肩を並べて、比較第一党となった。（この共産党の伸びは町田市においても同様である。）私たち、無所属市民派の得票数は急落で、この原因を突き止め、今後の

# 「市民の絆・大阪」の生き生き女性たち

報告者；希望大阪・戸田久和（「市民の絆・大阪」共同代表）

## 参院選大阪地方区への立候補を 決断した、長崎由美子さん

（「市民の絆・大阪」共同代表）

### プロフィール

静岡県三代続くクリスチャンの家の4人姉妹の末っ子として生まれ、洗礼を受ける。

80年；名古屋の「日本福祉大学」卒業、YMCAへ就職。

82年；大阪市生野区へ転居、協会施設主宰に。翌年結婚。教会の地域活動協議会でも活動。

85年；生野区で、教会関係の保育園保母に。

97年；「市民の絆・大阪」共同代表に。



共同運営など民間のみ)がこういう悲劇をつくり出しているをつくづく思ったんです。

### ●辻本清美や「市民の絆」との出会い

96年の衆院選挙では新社会党に投票しました。清美ちゃんのこと全然知らなくて、なんで社民党なんかから出るんだろうくらいにしか思っていなかったんです。そのあとで、週間「金曜日」で「永田町航海記」を読んでいるうちに共鳴するようになって、BSでの5月講演でも大感銘を受けました。

実を言うと当時は、働く一女性が当選する困難さが見えてきて、議員を目指すことをもうやめようかとまで思っていたんですが、清美ちゃんの話で私もがんばろうって思い直したんです。それが「市民の絆」の動きに参加していく事につながりました。

### ●参院選にたつ心境と、また社民党公認ということについて

長年勤めてきた保母をやめて年収半分で絆の専従に4月からなること自体、家族的にも大決断でしたが、今度は国政選挙ですものねえ、ついこの間まではとても考えられなかったことです。でも清美ちゃんたち市民派議員の奮闘ぶりを間近で見たら、一人でも多く市民派が国政にも出て一緒にやっていかなければと思うようになりました。社民党を市民政党内に生まれ変わらせるためにもそれが必要だし、大阪の社民党の人達だったら信頼しあってやれる、と実感するようになってきました。「市民の絆」でやったら政党に利用されるのではなく、政党を変えていくことも含めて自分たちのやりたい選挙をやれるんだという実例を作っていきたいですね。

### ●最後に長崎さんの生活信条などを。

母親の苦勞を見てきて、子どもの時から「女も手に職を持って経済的自立ができなければ。」と考えてきました。連れ合いは福祉大時代の同級生で精神科のケースワーカーをしています、女性に身の回りの世話を期待する人でなくて、一緒にいてくつろげるので結婚しました。

クリスチャンの私にとって、信仰とはイエスがどう生きてきたかを追体験して探っていくことであり、本当に神の道を歩もうとするならば、世俗の権力や価値観とぶつからざるを得ないものと思っています。

### ●10数年に渡る生野での地域活動のきっかけは？

高校の時の先生に水俣病のこととか、民族差別のこと、戦後補償のことなど教えられて、福祉や社会問題に関わるような仕事をしたいと名古屋の「日本福祉大学」に入ったんです。学生時代に通った教会の牧師さんが、在日韓国朝鮮人と共に地域で生きる活動や韓国でスパイでっち上げで投獄された在日韓国人の救援活動、野宿者や労働者の支援活動などされていて、実際の運動にも出会うことになりました。

その教会でセミナーとして、生野区や釜ヶ崎へ初めて行った時に、「恵まれた側の贖罪意識」という自分の感覚の一面性にも気づかされ、この人たちと共に暮らしたいと思い、生野に住むようになりました。

大学では民青の友人も多くて、当時の社共共闘・革新市政の選挙運動のお手伝いもしていました。でも名古屋駅での「クリーン作戦」でホームレスの人達を革新行政が追い立てるのはおかしい、と民青の人達に言ったとき、「ルンプロ（ルンペンプロレタリアート）だから、目覚めていない人達だからしかたない」という冷たい態度でした。個人的にはまじめでいい人達だけど、マイノリティーの問題に冷たい組織体質には違和感を持たざるを得ないなあ、と思いました。

### ●「女性を議員に、バックアップスクール（以下BSと略す）」への参加

現実に政策を変える立場に入らないと、という思いが強くなってきて、97年開講の第1期から参加したんです。市議になって行政を変えていっている人達の報告を聞いてますますそう思っていました。その間、3月に自分の子どもも通っている学童保育で障害児が事故で死亡する大事件があって、善意でがんばってきた指導員が責任感にいたたまれなくなって辞職し、親どうしも辛い関係になってしまうという事があり、行政の貧困（大阪市の場合は市設ではなくて、親たちの

## 松本興代子さん

（運営委員）

「私自身がそうだったけど、大人として最低限知っておくべき社会の仕組みとか税金の行方とかに、関心を持たないでいるっていうのはダメね。だから、「市民の絆」で楽しく、面白くやりながら、そういう多くの人達を巻き込んでいきたいのよ。」

海外へ出てみて、子供時代から感じていた息苦しさから解放されたとのこと。みんなのために役立てるビジネスを起こそうと奮闘中のパワフルな40代です。



## おおたよう子さん

（運営委員・専従）

「運動とか全然やったことがなかったし、清美さんのこともほとんど知らなかったんですが、去年8月のNPO報告会で話を聞いたのがきっかけで、「市民の絆」に顔を出して、専従にまでなっちゃいました。」

卒業、就職前の4カ月の事務局専従。政策提言とかに関心のあった彼女の卒論テーマは「市民団体を変える日本の法的基盤」



## 「市民の絆・大阪」の 生き生き女性たち



## 秋久保 晴さん

（辻元事務所専従 兼 絆補助）

「何もやりたいことがなくて、大学も辞めようと思っていた92年の20代の春、親の薦めで乗ったピースボートがすごく面白くて、それからはピースボート中心の生活になりました。」

ピースボート体験から、語学留学もして、外資系ホテルの営業職員としてベトナムで2年間働いてくるほどのベトナム好き。4月からまたベトナムに戻って職探しをします。



## 「後方地域支援法」（仮称）PKO協力法案の 国会上程を阻止しよう！！

ガイドライン関連法案で「後方地域支援法」の国会上程が近づいている。国内有事に際しての非常事態対応を含んだ有事立法ではないものの周辺有事の際の米軍活動支援を規定した法律の制定である。この周辺有事に対する後方支援の中身は、現在外務省・防衛庁・内閣安全保障室の中で作られつつある。周辺有事に関する規定では、日本の「平和と安全に重要な影響を与える事態」として具体的な内容・地域にふれないまま周辺事態の認定と米軍後方支援の内容を国会承認不要のまま、閣議決定のみで行おうとしている。さらに、補給や輸送など日本が対応可能な対米軍支援の内容や、自治体民間団体などの協力規定を盛り込もうとしている。

また、この法律だけでなくガイドライン関連法整備として自衛隊法の改訂なども準備されている。これらの法律は、ガイドラインをさらに一歩進め、米軍と自衛隊の一体化を強化し民間人や地方自治体を米軍の戦争に積極的に協力させ、国会権限・チェック機能を無効にさせるものである。この間の周辺事態の範囲を巡っての社民党の攻防が再び、国会内で始まろうとしている。橋本政権は、経済政策の失敗や沖縄基地問題ですでに追いつめられており、この上有事立法を強行して乗り切れる立場にはなく、政治争点化をさせて「邦人救出のための自衛隊艦船の海外派遣」という自衛隊法改正のみに絞ろうとしていた。しかし、ここにきて米国の圧力と政府見解だけの解釈では無理という判断が政府内部、法制局で強まり、新規立法化が急浮上してきた。

参院選を前に、一段と社民党が独自色・平和色を強めていくことは、はっきりしており、私達も市民の絆や地域の連携の中で、社民党と共に明確なガイドライン関連法の国会上程阻止・廃案の声を上げてこう！米軍と一体となった戦時社会づくりを目指す、これらの内容を地域・職場で多くの人に知らせ、7月参院選の争点化につなげていく取り組みを開始しよう！

# 学生座談会 「沖縄の体験」

私たち3人は、「市民の絆・東京」のメンバーである（と同時に希望21のメンバーでもあるような）志自岐さんに誘われて、沖縄の選挙の手伝いに行ってきました。行って見たら、ずいぶん想像と違って物凄く戸惑ったけど、それはそれとしてもなかなか考え深い体験でした。と、思っていたら、希望21・未来はみんなでつくり隊のメンバーの小島さんから「沖縄の感想を座談会で話してみしてほしい」と頼まれた。阿佐ヶ谷の沖縄料理屋さんでほぼ1ヵ月ぶりの沖縄そばをすすりながら、3人で話してみた。名前は通称を使わせてもらいます。

3人のメンバーを紹介します。

★とび吉（大学2年）、◆なおゆき（大学2年）、♣ともゆき（大学2年）

★とび吉 テレビや新聞を見て考えていたよりも、名護は静かだった。本当に選挙があるのかな？って感じ。マスコミは現地よりもずいぶん大げさに報道するってわかった。当選した岸本もへたなことではできないと思う。だって、選挙期間中は住民をはぐらかすようなことを言っていたし、もしも基地を受け入れたら、即リコールになっちゃうからね。

◆なおゆき ぼくは名護の人の勢いを感じた。なんかみんな怒っているように思えた。投票率の高さもすごい。今回だけなのか、それともいつもこんなふうなのかよくわからないけど。

◆なおゆき 選挙結果を聞いた時はちょっと拍子抜けしたけど、あとでよく考えてみたら、名護市民の判断は賢明だったと思う。玉城さんが市長になっていたら経済振興策は絶対に来ないし、岸本さんは基地については県の判断に委せるって聞いていたわけだから。経済振興策が来て、しかも基地を作らせないという判断だったんじゃないかな。

♣ともゆき 経済振興策では玉城さんは、結局は政府頼みだったでしょ。これでは限界があるよね。政府の振興策では土建屋は儲かるかもしれないけど、あとはパートの雇用が少し増えるぐらいだよ。自由貿易地域のほうもなんかボシャってる感じだし。

★とび吉 でもさ、原発のある町の役場ってすごくきれいだよね。たしかにお金は落ちるんだよ。ヘリポートができたとしても、町の中心地からは離れているから、名護の中心部では困らないかも。そう考えると、経済の面から言えばヘリポートでマイナスになることは少ないはず。環境問題という面で言うと、現地の人と東京の僕らの感覚にはずいぶんずれがあるし、生活や意識の面ではギャップがあるから、何とも言えないな。

◆なおゆき 経済の振興策って東京的な感じがするんだ。大きな設備を作ったりすれば、一時的にはお金が落ちるけど、根本的には地場産業を育てること

で解決しない。環境だって、観光資源として大きな意味があるよね。世界の南北問題が、沖縄でも同じような構図で存在するね。もっとも沖縄は北のほうで貧しいんだけどね。

★とび吉 沖縄には沖縄の産業の発達があるはずだと思うね。観光といっても名護はすごく行きづらい感じがある。途中を基地で阻まれているよね。あんなに基地がたくさんあったら、流通っていう面だけを考えても、産業が起りづらいと思う。

◆なおゆき 基地の問題は安全保障と切り離せないよね。産業だけじゃなく。僕は平和主義者だし、それで人からはあんまりにも理想的だって批判されたりする。だけど、やっぱり安保は反対。沖縄は基地の島だって聞かされていたけど、いってみると地域によってずいぶん違いがあるってわかった。名護にはたしかに基地はあるけど、中心部から離れているせいか、なんか平和な町って感じがした。それに比べると、嘉手納基地なんかはそばに行くときすごい音がするし、ふ天間なんかはまわりが住宅地だからもしも事故が起こったら、たいへんなことになる。国家の安全と国民の安全が相反していることが肌でわかった。

★とび吉 憲法の観点からいえば、安保は間違いなんだ。すごくシンプルに間違いなんだけど、政治的にいうとじゃあ日本の安全をどう守るのって質問がかならず来るよね。そこでね、僕はコスタリカの例を考えるんだ。コスタリカは地中海の紛争地域に位置しているんだけど、軍隊を放棄しているんだ。それは、軍隊を持つことで却って紛争を誘発しやすいし、紛争の当事者になりやすいからなんだ。その考えでいけば、日本に米軍がいることで却って、紛争の場合のターゲットになりやすいよね。これは冷戦の後でも同じじゃないかな。

♣ともゆき イラクにしたら、アメリカは軍隊を送っていたけど、結局はアサンの調停でなんとかなった。ドンパチが本当に問題の解決になるのか、世界中の人が疑問に思ったんじゃないかな。施設を破壊することや、フセインを暗殺することが解決の道じゃないと思うんだ。沖縄の基地だって不必要だと思う。

◆なおゆき コスタリカの例をみるまでもないよね。沖縄に米軍が駐留していることで中国や北朝鮮の軍事強化につながってる。

★とび吉 米軍があることで経済的な恩恵があるっていう人もいるけど、それは違うと思うな。戦争が終わったときに、すでに米軍がいて、基地に使えない土地だけが農地として戻された。現実問題として、基地があることで経済的な基盤が成立しているとしたら、却って、基地の存在がまっとうな経済成長を阻害していると思う。復帰後の開発ブームでも結局は本土の大手資本が入ってきて、お金はみんな本土に行っただけだしね。

♣ともゆき その意味でも、現実を変える方法として選挙がある。東京にいと、だれが当選しても同じって感じがするけど、沖縄では選挙結果が直接的に生活に関わってくる。生活をかけて選挙やってたよね。

★とび吉 僕も住民投票にはすごく興味があったんだ。間接民主主義が空洞化してるからね。国政選挙はすこし違ってもいいけど、自治体選挙は新展開が訪れてる感じがある。確かに住民による政策の決定

ていう意味では大きいよね。誰かが、「地方自治は民主主義の学校」って言うって言うけど、革新自治体の頃とは違った意味で地方自治の役割があると思う。

◆なおゆき 僕が政治の事を考える原点になったのは逗子市の池子米軍家族住宅問題なんだ。米軍がもっていたから50年間手付かずになっていた池子の森の自然を守ろうっていうのが運動の始まりだから、住民エゴもあったと思う。でもその中で、市長をリコールして反対派市長を当選させ、市議会も反対派多数にして、市も反対って姿勢を打ち出したのに、国家権力で強引に決まっちゃった。ここに住民自治の姿を見たんだ。国VS地方っていう構図があって、地方選挙は政府との戦いの場だった。ただ、沖縄の選挙では市長選の内部を少しだけのぞいて、それぞれの政党や団体の思惑があったりして、政治のどろどろした部分を少し感じた。

ぼくたちは志自岐さんの口車に乗って、沖縄に行ったわけではないんだ。沖縄の事を去年辺りから色々勉強して、それでもなにか言うと、沖縄に行ったこともないのになんか言われて。この壁をなんとか突破したかったから。行ってみたら、選挙の手伝いはほとんどなにもなくて、ちょっとがっかりしたけど、やっぱり沖縄に行ってきたよかったです。思ってる。（3人より）

## 盗聴を合法化する「犯罪対策法案」なんてとんでもないぞ！！

「暴力団や総会屋、オームなどの組織犯罪を未然に防ぐためには、米国でも実施している通信傍受を可能とする法が必要」とあたかも正義のための法であるかのような言葉を駆使して、警察権力の盗聴が合法化されようとしている。この法案は言うまでもなく信書・通信の自由を侵す憲法違反の法律である。警察による個人の電話盗聴は、神奈川県警による共産党国際局長宅の盗聴という警察ぐるみの組織犯罪が今も記憶に新しいが、今回の法案はこれを合法化するもの。現在、与党内で協議が続いているが、自民は社民の反対があろうと国会を断るといいう方針を明確にした。（2月18日）憲法違反であろうと何がなんでもやるという自民の動きの背景には、国際的な「犯罪捜査」の基準方法を画一化しようという動きがある。この2月、独でも盗聴合法化の基本法（憲法）の改訂が強行された。国家ぐるみで人々を管理し、統制しようという動きが始まっている。社民の反対の姿勢を支持し、上程阻止に向け、地域から「絶対いやだ！」の声を上げていこう！

希望の歌が街に響きわたっていた。バスを待っている人や、通りかかった人々はその歌声と詩を味わっているように見えた。新しい市民の絆の旗の青は、まだ20代の候補者の新鮮な感性をそのまま映しているようだった。そんな町田市の選挙戦だった。

最終日、みぞれ混じりの雨の降りしきる中、赤や黄色のペンライトを持って夜の団地を練り歩いた。明かりのついた窓から手を振ってくれる人がシルエットになって目にしみた。自分の住む団地で、最後の枯れきった声を上げ、それに応じて手を振り合う住民と候補者の姿は、大切な選挙の原点のように思えた。

投票日はあいにくの雷、投票率は7%も落ち、現職の女性障害者議員が落選するなど、選挙結果は厳しいものでしたが、暗くなるばかりの社会を、希望の見える社会に変えていくためには、ここからスタートする以外にないということであらためて実感しました。人と人が出会い、語り合い、できるところから行動を起こしていく。そこにいつも希望の歌があるといいなあ。(ち)

■先月号の8ページ掲載の発行日とナンバーが間違っていて、28号のままでした。29号で2月22日発行です。いつもドジってばかりでごめんなさあい。

## 希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることの豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域から国の進路、世界の在り方を決定する政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身の在り方、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難とともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかひの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします！年間購読料3000円（送料込み）

郵便振替：00100-1-97125『希望の21世紀』

希望

21

century

月刊『希望の21世紀』●30号●1998年3月27日

発行●「希望の21世紀」全国委員会

編集●希望21三多摩

印刷●Jam Print

連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方

TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都

京都市伏見区石田西ノ坪1番地 醍醐石田団地1号棟417号室 吉田方

TEL&FAX 075-572-4445

●希望21・未来はみんなで作くり隊

東京都杉並区高円寺南2-39-15 光荘203 菅原方

TEL&FAX 03-3314-1505

●希望・大阪

大阪府門真市北条本町17-7安井文化202 戸田方

TEL&FAX 0720-85-6491